

それは心房細動？

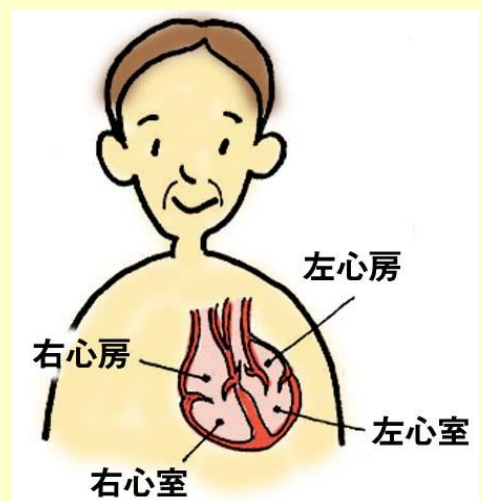


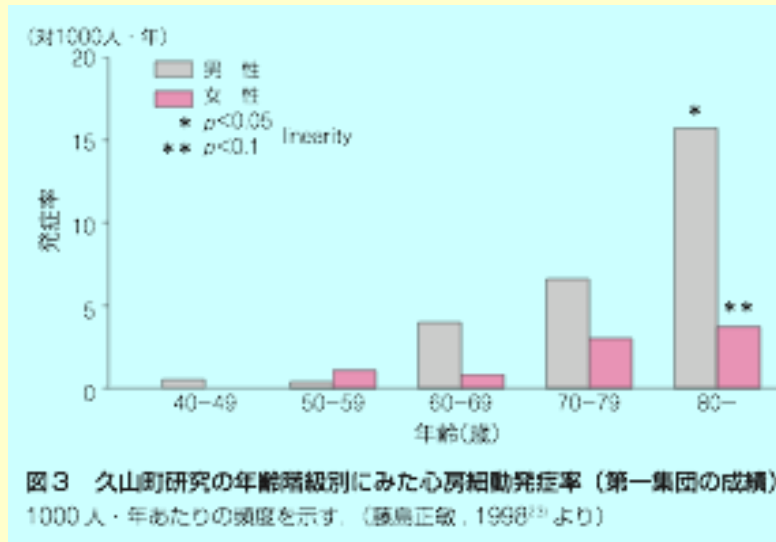
総合内科医 川村 誠



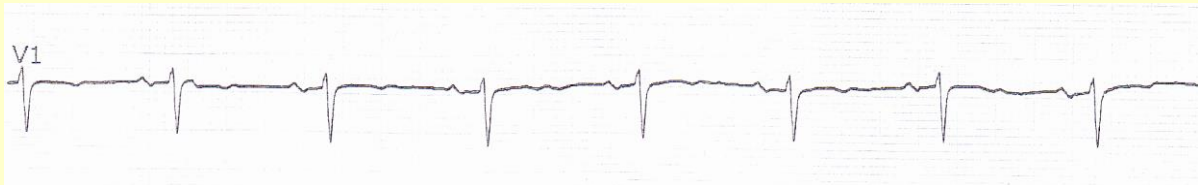
胸がドキドキする、しんどい、息切れがする、疲れやすいなどといったときがありませんか？そのとき手首の脈を触ってみると脈拍が速かったり、バラバラになったりして不規則になっている場合があります。心電図検査をしてみると不整脈の所見を認めることがあります。不整脈の頻度が少ない場合には、検査時には所見がないこともあります。

今回は不整脈の中でも『心房細動』についてお話をします。心臓には左右の心室、心房がありますが、心房細動は心房からの電気信号が不規則になり不整脈を起こしてしまう状態です。不整脈にもいろいろ種類があり比較的問題のない場合もあります。もともと心臓に持病がある場合、疲労、ストレス、アルコール過剰摂取、また80歳以上などがあると心房細動発症率は高くなります。

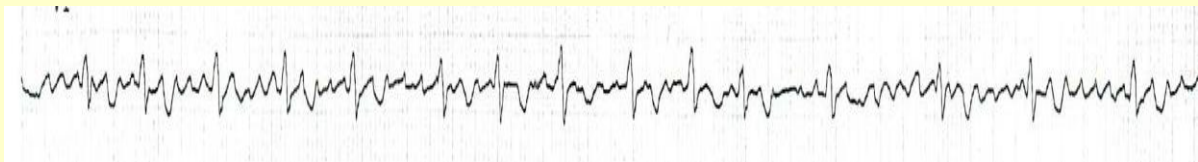




(正常の心電図)

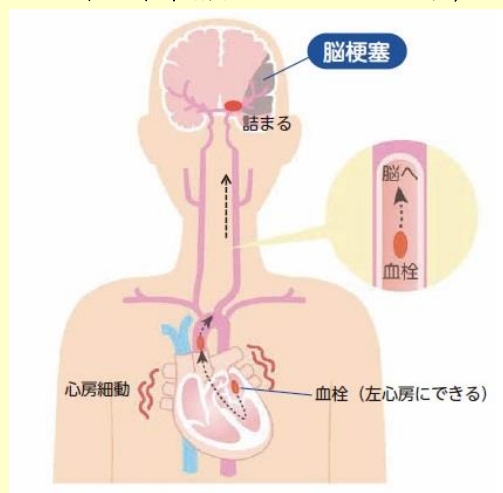


(心房細動の心電図)



心房細動が問題になるのは脈拍が速すぎたり、遅すぎたりすると心不全や失神など危険な症状を起こしてしまう可能性があることです。またもう一つの大きな問題は脈がバラバラになることによって、心房内の血液の流れが悪くなり、血液の固まり(血栓)ができやすくなるということです。この血栓は大きいことが多く、頭の大きな動脈に詰まることがあります(脳塞栓)。この脳塞栓症の場合、いきなり意識がなくなったり、重度の身体の麻痺を起こすことがあります。それにより生命予後を含め日常生活に経済的、人的負担が生じる場合が多いため、社会的にも問題となっています。

日本脳卒中協会ホームページより



治療については不整脈自体を正常化させる抗不整脈剤、脈拍数を調節する薬剤、血栓症を予防する薬剤（抗凝固療法）重症の場合はカテーテルによる治療などがあります。もちろん薬ですので場合によっては副作用が出現することもあり、医療機関での薬の調節が基本となります。血栓症の予防薬は、ワーファリンしか以前はありませんでした。この薬を使用する場合には、効き具合を調節するため血液検査が必要であったり、その効果に納豆など食べ物の影響があるなど使用に注意が必要でした。最近では新薬も発売されるようになりワーファリンよりコントロールが容易になりつつあります。

最近では心房細動がある場合に抗凝固療法を開始する指標として CHADS2 スコアがあり、心不全（C） 高血圧（H） 年齢：75歳以上（A） 糖尿病（D）などが存在すると各1点、脳梗塞や一過性脳虚血発作（短時間脳に行く血液の流れが一過性に悪くなり、運動麻痺、感覚障害などの症状が現れ、24時間以内、多くは数分以内にその症状が完全に消失するもの（S2））を起こした場合は2点とし合計点が高いほど脳梗塞発症の危険性が高くなります。



心不全のある方
1点



高齢者
1点



脳硬塞になった
事がある方 **2点**



高血圧の方
1点



糖尿病の方 **1点**

合計6点

CHADS₂ スコア

- | | |
|------------------------------------|----|
| 1) 心不全 C(congestive heart failure) | 1点 |
| 2) 高血圧 H(hypertension) | 1点 |
| 3) 年齢 75歳以上 A(age>75) | 1点 |
| 4) 糖尿病 D(diabetes mellitus) | 1点 |
| 5) 脳梗塞、一過性脳虚血発作の既往 S2(Stroke/TIA) | 2点 |

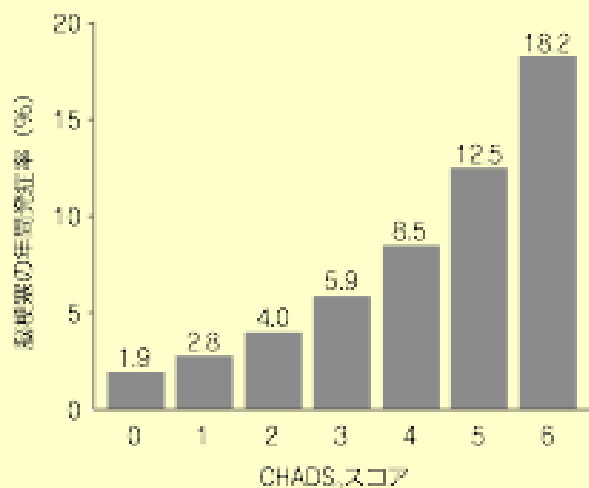


図8 CHADS₂スコアと脳梗塞発症率
(Gage BF, et al. 2001¹⁹⁾より)

心房細動は古くから知られている不整脈です。特に合併症としての脳塞栓は最初の発作でも重篤な麻痺など日常生活に支障を来すことが多いことが問題です。若い人でもストレスが多く、疲れがたまったり、喫煙、アルコール過剰などがあると発作性心房細動を起こすこともあります。最近は発作性のものであっても危険性はかなり存在するとされています。調子の悪いときには脈を測ってみてもよいのではないのでしょうか。